

「工業化における熟練供給の比較経済史的研究」 研究成果報告

齊 藤 健太郎*

要 旨

本研究「工業化における熟練供給の比較経済史的研究」は、18世紀末から20世紀初頭のイギリスと日本に関して、工業化過程の労働市場における労働供給、特に高い技能を持つ労働者による熟練供給を明らかにすることを目的とする。事例として、1. 労働移動、特に遍歴システムを通じた熟練供給、2. 技能形成、特に徒弟制を通じた熟練供給、の2点を取り上げる。資料のデータベース化と整理を中心に、前者においては機械工の労働移動を、後者においては1908年のスコットランドの徒弟調査について研究した。また、近代日本の熟練建築労働者の伝記資料の整理を行った。

キーワード：労働市場 労働移動 徒弟制 イギリス 日本

1. はじめに：本研究の目的と方法

18世紀後半からイギリスでは「産業革命」が進行し、その後、各国で工業化が展開する。また、日本においては近代化が19世紀後半から展開する。その期間に労働力がどのように供給されたかを考察することが本研究の目的である。研究対象として、高度な技能をもつ熟練工を取り上げ、熟練供給への労働者・雇業者組織の影響を明らかにする。労働供給の増加には様々な径路があるが、工業化の過程では、労働移動と労働力の質の向上による熟練供給が重要である。特に、これらが主に賃金格差や失業などの市場要因によって生じたのか、また労働組合や政府・雇業者による制度的要因によって誘導されたのかは、工業化における市場と制度の役割を考える際の根底にある問題である。そこで、本研究計画は、1. 労働移動、特に遍歴システムを通じた熟練供給、2. 技能形成、特に徒弟制を通じた熟練供給、についての事例研究を計画した。第1の労働移動については、イギリス機械工の労働移動を通じた熟練供給、特に機械産業の労働組合による労働移動を実証的に明らかにすることが具体的な目的であった。第2の徒弟制を通じた熟練供給に関しては、イギリスに関して19世紀後半・20世紀初頭の徒弟制の状況について研究することを第一の目的とした。また、双方に関して文献史的整理を行い、日本の明治 - 大正期に関しては、大工などの建築労働者の伝記等を収集・整理し労働移動と訓練の状況を確認することを計画であった。日本の工業化期、明治・大正・昭和戦前期の技能・職

* 京都産業大学経済学部

能訓練については学校教育に関する研究が中心であり、建築労働者で近代以前に主流であった徒弟については経済史として取り上げられることは少なかったからである [初田 (1997)]。以下では、文献史的整理の結果を示しながら、本研究計画の実施状況について、簡単にまとめる。なお、本稿は「研究報告」であるため、関連文献のリストは特に付さず、研究の指摘にとどめるが、その詳細は本研究の成果である論文（文末に付記）に記載している。

2. 研究の背景

労働移動に関しては主にイギリスの18世紀後半から20世紀初頭を対象とする。西欧では、遍歴システム *tramping system* として、工業化以前から労働者が労働移動をしながら技能形成や組織形成をするネットワークを持っていたことが知られる。遍歴システムに関する経済史としての研究としては早いもので Hobsbawm (1964) などが、数量的研究では Southall (1991) などがある。また、地域間の労働移動は労働市場の効率性を示すものであり、その後の労働移動研究は Boyer and Hatton (1997) のような時系列分析を用いての市場統合分析を目的とするものが中心となる。しかし、これらの研究対象の業種は少なく、近代的な熟練工については十分に研究が進んでいない。

技能形成に関しては、生産効率を高める高い技能や知識などの人的資本が経済理論では重視され、産業化と教育・職業訓練との関係が経済成長理論の中で、定式化されてきた。その中で歴史的に中心的な役割を担ったとされるのが徒弟制であり、産業革命の時期である18世紀後半から19世紀半ばのイギリスに関して主張は二つに分かれる。ひとつは徒弟制を通じた熟練供給が大きな役割を果たしたとするものであり、他はこの時期に徒弟制が衰退したというものである。これらが労働争議などに関する断片的な資料を接ぎ合わせて論じられることはあったが、数量的に判定できる証拠は十分ではない。また、日本では「近代における徒弟」は等閑視されており、明治以降の職業教育は近代的な学校教育が中心であり、前近代的な徒弟制は下位にみなされてきた。熟練工の保護・育成については政府による熟練工への対応を整理した千本 (2008) や、企業による訓練を通じての機械工の熟練供給を論じた Ichihara (2016) があり、職業訓練についての研究は多いが、徒弟教育については、経済史との関連で論じられた研究は少ない。

3. 労働移動に関する研究経過

近世において熟練工の遍歴はイングランド全体の熟練職人の中で確立されていた。徒弟を終えてすぐの熟練労働者が「遍歴にでる」ことは長い伝統であり、技能の改善と実践及び雇用のため広い経験を求めて全国を移動したのである。おそくとも14世紀には、地方のクラフト・ギルドは外部参入者への労働許可を規制していたといわれ、世紀の石工の記録では、参入者に仕事を見つけ、旅が続けられるように助けるシステムがあった証拠がある。このような「旅をする同胞 *traveling brothers*」制度は他の職業にも広がり始め、はじめは17世紀に絹織物工や羊毛漉工や織工で、さらに18世紀にはより一般的の熟練工の間に広がった。19世紀の初頭にはこれは、地域的失業を救済するシステム

へと進化した。いったんシステムが確立されると、遍歴は地方での争議の間に機能して、ストライキに参加者を地方に分散させる機能も有した。遍歴は他の都市の価格や賃金についての情報交換のチャンネルとして機能し、地方の賃金要求や地方争議に参加することに伴うリスクを予測するための必要な基盤となった。このような高度に組織化された遍歴ネットワークは1790年代には以下のような業種で記録されている。仕立工、帽子職人、織物工、羊毛漉き工、製革工、ブラシ製造工、建屋大工、植字工、製紙工、キャリコ印刷工などである。1800年までには少なくとも17の職種、また1820年までで少なくとも28種、このタイプが実質的に都市間で接触していることが推測される [A.J. Reid (2008)]。

本研究はこれらの労働移動に関して、特に19世紀半ばから後半の機械工を事例に研究を進めた。基本資料として、ASEの月報 Monthly Report のデータ整理を行った。ASEは組合員に求職のための労働移動に対して給付金を支給しており、組合員の移動は月報に示され、1865年から1914年までの移動記録(約25万件：氏名・年齢・職種・所属支部名・移動した支部名・給付金額・その他)が残されている。一方で、労働移動の決定には移動をおこなう機械工が市場の状態を知っていることが影響すると思われるが、実際にASE月報は「各支部の状態 (state of trade)」を組合員に一覧表 (Very good, good…badなどで表される) にして与えていた。この記録は1895年まで毎月分が利用できる。本計画ではこのデータベースを作成するための準備的入力の一部を行った。

4. 徒弟制度に関する研究経過

イギリスの徒弟制は、他のヨーロッパ諸国の場合と同様に中世の仲間団体に起源をもち、ギルドの親方や職人が徒弟を訓練しその数をコントロールすることにより労働者の需給を有利に管理しようとしたものである。イギリスでは、14世紀のペスト流行や農村工業の発展のために、ギルド徒弟制の外で、非公式の技能教育が広がったため、これを危機とらえた政府が1563年に徒弟法 Statute of Artificer を定め、徒弟の法制化を試みた。これは7年のあいだ親方の元で過ごし、この修業期間を経て雇い職人となるシステムである。しかし、17世紀に徒弟制は変化する。17世紀の初めには、ロンドンでは徒弟は人口の15パーセントを占めていたのに対し、18世紀初頭には4～6パーセントになっていたといわれる [Schwartz (1987)]。また、奉公人の徒弟を計算する斎藤修は17世紀末のロンドンの徒弟人口の割合が24パーセントであったのが、19世紀には15パーセントに落ち込んだと推定している [斎藤 ((1990))]。徒弟制の衰退の一つの画期とみなされるのが、「産業革命」期の只中、1814年に徒弟法は廃止されたことである。これによって、実際に仕事に就業する前に徒弟奉公を行うことが法的に必要ではなくなったのである。これは、産業革命期の技術展開によって既存の訓練制度が不要になったこと、また、ギルドのコントロールが衰退したことに関わっているとされ、1800年を期に徒弟制の職業への一般的な影響が終わったとされる。

しかし、徒弟制は単純に衰退したという主張には多くの議論がある。ハンフリーは『産業革命期の子供期と児童労働』において、労働者の自叙伝を用いて徒弟経験者の割合を計算しているが、1627-

1790年、1791-1820年、1821-50年、1851-78年の各コーホートにおいて、それぞれ63.3-77.2パーセント、56.0-63.3パーセント、36.3-49.8パーセント、26.2-41.4パーセントが徒弟の経験を持っているという結果であり、自叙伝作者という特殊な例であることを割引いても、減少しつつあるものの、19世紀末までかなりの割合で徒弟が残っていたことをしめすものとなっている [Humphries (2010)]。さらに20世紀初頭以降についても徒弟制の残存が指摘されている。また、エルバウムは1920年代における徒弟はハンフリーの自伝著者たちよりも徒弟の修了率が高かったことを示しており、20世紀になっても徒弟が単純に衰退したのではないことが示唆される [Elbaum (1989)]。また、機械産業のような熟練工の職種でも、20世紀以降は一般的な傾向として徒弟制が後退したことが認められる一方で、ツールメーカーのような高度な技能を要する部門では、徒弟-職人率は一定以下に抑えられ、訓練の重要性は放棄されたわけではなかった [齊藤 (2002)]。これらに対し、20世紀初頭の経済史家 R.H. トーニーは、年少労働者の失業と臨時労働者化を案じて「最近、徒弟制度がこわれつつある (1909年)」と述べている [Tawney (1909)]。そこで、本研究計画は1906年調査にトーニーが参加したスコットランド若年労働調査を取り上げ、その調査データを整理、一部の分析を行い、19世紀後半から20世紀初頭の徒弟制の状況を研究した。これは、グラスゴウの社会改良オジリヴィ・ゴードンにより刊行された *A Handbook of Employments* (1908) (『雇用の手引き』以下『手引き』を略) を用いて、20世紀初頭のスコットランドの若年労働と徒弟制について調べたものである。『手引き』のリストおよび詳細な職業の状況は、本来、この時期における徒弟制の状態についてより包括的な分析を行うことを可能にするものであり、19世紀後半から20世紀初頭のイギリスの徒弟の状況を解明するための貢献となった。この研究結果は、『大原社会問題研究所雑誌』No.748 (2021年2月号) に「20世紀初頭スコットランドにおける若年労働と徒弟制をめぐって - O. Gordon, *A Handbook of Employment* (1908) を読む」として掲載された。また、日本の建築労働者に関して伝記資料の整理を行った。

5. まとめと展望

本研究は本来、新しい資料収集を含めて計画されたものであったため、昨年度のように資料へのアクセスに制限がある状況で十分に展開できず、また多くの作業がデータ整理と入力に留まったことは残念であるが、目的の一部が論文刊行などで達せられたなど一定の成果があった。これは、今後の研究への大きな貢献となったことは言うまでもない。京都産業大学研究機構と学術研究推進制度「科研費再挑戦プログラム」への感謝の意を新たにし、実施報告書を結びたい。

・ 公刊された業績のリスト

齊藤健太郎 「20世紀初頭スコットランドにおける若年労働と徒弟制をめぐって - O. Gordon, *A Handbook of Employment* (1908) を読む」, 『大原社会問題研究所雑誌』No.748 (2021年2月号)

Comparative studies in economic history of skill supply during industrialization

Kentaro SAITO

Abstract

This research project deals with labour supply during industrialization of Britain and Japan from the late 18th century to the early 20th century, especially on highly skilled workers. We have discussed, as case-studies, firstly on labour migration through tramping system among skilled workers and secondly on skill-formation especially through apprenticeship. Constructing database as a major part of the research, we have explored migration of skilled engineers and the inquiry of the apprenticeship in Scotland in 1908, respectively. In addition, we have researched on skilled construction workers by using their autobiographies.

Keywords : labour market, migration, apprenticeship, Britain, Japan

